

(3) ②様式第3号-2 (報告書)

※文字のフォント、大きさは Meiryo UI / 12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。

※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。

※必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

NITS・教職大学院・ 教育委員会等 コラボ研修プログラム 支援事業報告書	実施機関名・連携機関名 福島大学大学院教職実践研究科
	事業名：NITS・福島大学大学院コラボ研修 学び続ける教師コミュニティ：学校改善リーダーシップ研修 2024
	研修等名：【NITS・福島大学大学院コラボ研修】 主タイトル及び副タイトル 学び続ける教師コミュニティ：学校改善リーダーシップ研修 2024～ミドル・リーダー養成研修～
	開催日時：第1回 令和6年7月31日（水） 13時～16時 第2回 令和6年8月7日（水） 9時30分～16時 第3回 令和6年11月16日（土）9時30分～15時30分 開催場所：福島大学（福島県福島市金谷川1番地） 参加人数（総数）と参加者の属性：第1回（22人）教員13人、院生4人、大学教員5人 第2回（28人）教員16人、学生・院生6人、大学教員6人 第3回（32人）教員27人、大学教員5人

目的：現在、学校には高度化・複雑化する諸問題への対応や子どもたちに21世紀を生き抜く力を育成するための「主体的・対話的で深い学び」をめざした「個別最適な学びと協働的学び」の一体的充実など様々な改善が求められ、学校改善のため学校経営に参画し、協働体制づくりを推進していくミドル・リーダーへの期待が高まっている。また、本学大学院では、地域の教育課題について理解を深め、幅広い視野を備えるとともに、授業力、マネジメント力など高い実践力を身につけ、常に学び続け、教育課程の改善や学校改革を牽引する「教員のミドル・リーダー」の育成を目指している。本研修の目的は、学校改善を牽引するミドル・リーダーを目指す教員などが、3回の継続した研修を通してチームとしての組織マネジメントの推進の重要性を認識して、豊かな気付きをもとに学校課題解決に向けた方策を検討し、実践につなげていくことである。

内容：※全体発表の内容をテーブル起こしするなど、具体的に記載してください。

第1回「学校の課題整理と解決策の検討」①学校の内外環境の分析(SWOT分析)についての説明 ②SWOT分析を活用した具体的事例の発表 ③演習(SWOT分析) ④グループディスカッションと振り返り
事例発表では、「SWOT分析について何を目的に行うのかを明確にする必要性」などについて発表があった。

第2回「今日的課題を解決するための研修」

①講演「特別支援教育を基盤とした学校改善」福島大学准教授 高橋純一先生②グループディスカッション
・講演では、障害モデルとして「社会モデル」を含めた「相互作用モデル」の考え方が必要。環境を捉える視点をもつことで、環境調整（＝合理的配慮）を行うことができる。障害概念と障害モデルを理解しないと、現状の障害者政策（特別支援教育）の理解が進みにくいということなどについてお話があった。

③講演「学校改善に向けた算数・数学における授業研究コミュニティの形成とその課題」

福島大学教授 森本明先生 ④グループディスカッション

・講演では、資質・能力ベースの算数・数学の授業づくりに向けて「子どもと創る算数・数学へ」「数学的に問題解決する過程の設計」「数学的な見方・考え方を自分のものに」が重要。算数・数学の教科の特殊性等から学校や地域ぐるみの協働による振り返りと省察を重視したコミュニティ形成の取組みについてお話があった。

第3回「研修のまとめ」

①講演「学校組織における協働とリーダーシップ～その原理から実践へ～」

北海道大学大学院 教育学研究院 准教授 篠原 岳司 先生

②ミドル・リーダー実践発表 福島市立三河台小学校教諭野口卓也先生 一子どもも教師も成長し続ける「楽しい学校」をめざしてー ③グループディスカッション(教員の協働を阻むもの、組織づくりの工夫とは)

- ・基調講演では、学校で PLC(専門職としての学ぶ合うコミュニティ)を実現していくためには、「協働の必然性にこだわる」「協働を阻む組織的（物理的）な壁に自覚的になる」「組織の心理的安全性を高める」「教員の多忙化状況の改善」「学校におけるリーダーシップの転換」が重要ということについて具体的なお話があった。
- ・ミドル・リーダー実践発表では、研修主任として「共感」「協働」「共有」を大切に、同僚の学びの外側・内側に立ちながら、「求める子どもの姿の共有」や「研究方法の工夫」「雰囲気づくり」についての発表があった。

成果：※参加者の声など客観的な情報・データとともに記載して下さい。

- ・参加の満足度についてのアンケート（４件法）は、「大変よかった」が第１回 94%、第２回 90%、第３回 100%であり、参加者の満足度は３回とも大変高かった。
- ・第１回では、「普段なかなかお話をうかがえる機会のない校種の先生方からお話をいただけたことが大きかった」「先生方のお話をお聞きしつつ、自校の課題解決につながりそうな気付きを得られたことも収穫となった」「事例発表からテーマを設定して SWOT 分析をし、課題解決の方策を考えることができた」などの感想があった。SWOT 分析の実際→SWOT 分析→校種ごと・異校種のディスカッションの流れは有効であったと考える。
- ・第２回では、「日頃のものの見方や判断の仕方を見直すきっかけをいただいた。環境要因を考慮してあげることでもっと子どもたちの力を伸ばすことができたかもしれない」「教科の本質的な話し合いができるコミュニティを発信できるようにしたい」などの感想があった。特別支援教育における障害モデルや教科の本質や授業研究コミュニティの価値・意義などについて自らの実践と関連させて考える機会となったと考える。
- ・第３回「研修のまとめ」では、基調講演やミドル・リーダーの実践発表を通して「組織の協働には、目標の共有化をし、個人の納得感、必要感に訴えることが必要なのだと感じた」「自主的に動いていく活気あるチーム学校を目指していくために、良いヒントをいただくことができた」「小さなコミュニティから始めて協働したい」「恐れのない組織づくりをめざしたい」「授業づくりを第一とするミドル・リーダー像がよくわかった、こうしたミドル・リーダーを育てなければならない」「講演と発表を通して理論と実践の両面から理解できた」などの感想があった。研修による新たな知識を自らの組織や実践と結び付け、今後の実践に活かそうとする様子が見られた。

「NITS からの提案（第一次）」との関連における研修担当者としての気付き

教職員の力量形成・深化の３つの過程に着目して本研修の目標を以下のとおりとし、講義（講演）→演習（グループディスカッション）→振り返りの流れを重視しながらミドル・リーダーとしての組織的・協働的な取組に視点を当てた研修とした。３回の研修の参加者の自己評価は以下の通りであり、３回の研修を通して、自らのスクール・リーダーとしての「在り方」に新たな気づきが見られたことは、今後の実践につながるものとする。

- ① 学校の現状の分析や解決に向けた組織的・協働的な取組に関する知識やスキルについて、新しく知る。（平均 76%）
- ② 自らの組織、ミドル・リーダーとしての実践の特徴や考えの枠組みについて、気付きがある。（平均 72%）
- ③ 自らの組織、ミドル・リーダーとしての「在り方」について、気付きがある。（平均 90%）

アイデアや工夫したこと：※実際の様子がより分かるよう、必要に応じて写真や図を用いて説明してください。

- ① ３回の継続した研修を通して、知識やスキル、豊かな気づきを得て、学校課題解決に向けた具体的方策を検討し、実践につなげていく研修とした。
- ② SWOT 分析の実際の事例発表やミドル・リーダーとしての実践発表、学校課題解決に向けた３つの講演、校種ごと・異校種ごとの２つのグループディスカッションの場を設けたことにより、理論と実践を通して、今後の実践につなげていくことができる研修とした
- ③ ２・３回はハイブリッド型とした。３回目は「Plant(全国教員研修プラットフォーム)」に掲載していただき、全国の先生方にご参加いただくこともできた。また、希望により ZOOM による授業の事前研究なども行った。